

代表者のことば

ともに考え、バトンを託す教科書



谷口 将紀 (たにぐち まさき) 東京大学教授

みなさんは将来、どのような社会で、どのような仕事をして、どのように暮らしたいですか。そして、次の世代の子どもたちに、どのような社会を残したいですか。――私たちの教科書は、このような問いかけで始まります。これは日本や世界の将来を担う若者へのエールであると同時に、現在を生きる私たち自身への問いでもあります。2020年からの新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、それまで当たり前のように思っていた学校生活や日々の暮らしがあっけなく一変させられてしまうことを、今の子どもたちは肌感覚で分かっています。東日本大震災などの災害の被害者やロシアによる侵攻によって平和な日常を奪われたウクライナの人びとの苦しみを、他人事ではなく捉えられる感性を持っています。3年後には成人となって社会に飛び立っていく中学3年生の、一人一人の経験や思いから引き出される「なぜ」「どうして」に寄り添いながら、現代社会はどのような仕組みで動いており、いかなる課題があり、その解決のために自分たちは主権者として何ができるのか。少しでも先にこの世に生を受けた存在として、これまで見聞きしたり学んだりしたことを伝え、ともに考え、そうして将来を切り拓くバトンを託す。このような気持ちで『新編 新しい社会 公民』を世に送ります。より多くの子どもたちが社会を考えるための役に立てることを願っています。

編集に携わった人々

- 代表
島津 弘 立正大学教授
顧問
荒井 正剛 東京学芸大学特任教授
関 裕幸 東京都立小石川中等教育学校主任教諭

- 高橋 慎一郎 東京大学史料編纂所教授
谷口 将紀 東京大学教授
矢ヶ崎 典隆 東京学芸大学名誉教授
小原 友行 福山大学教授
坂上 康俊 九州大学名誉教授
戸波 江二 早稲田大学名誉教授
関宮 陽介 京都大学名誉教授

- 秋澤 夢子 いの町立伊野中学校教諭
五十嵐 辰博 千葉大学教育学部附属中学校教諭
石高 吉記 埼玉大学教育学部附属中学校教諭
今村 彰子 練馬区立石神井西中学校主任教諭
入子 吾郎 元文京区立音羽中学校指導教諭
岩本 鷹薫 福井市明倫中学校教諭
上園 悦史 東京学芸大学附属竹早中学校教諭
山口 麻衣子 新潟市立内野中学校教諭
江間 史明 山形大学教授
大石 太郎 関西学院大学教授
緒方 浩臣 横浜市立港中学校校長
岡部 誠 板橋区立志村第一中学校校長
大西 弘員 広島大学附属東雲中学校教諭
小野 大助 福山市立神辺中学校教頭
勝田 俊輔 東京大学教授
鎌倉 夏来 東京大学准教授
唐木 清志 筑波大学教授
河野 真理子 早稲田大学教授
木村 博一 広島大学名誉教授
草原 和博 広島大学教授
久保 五月 高知県立高知国際中学校教諭
栗原 久 東洋大学教授
呉羽 正昭 筑波大学教授
小谷 勇人 春日部市立武里中学校教諭
兒玉 修 九州保健福祉大学学長
小林 大介 蕪市教育委員会指導主事
近藤 晃史 福山市立理想学園教諭
近藤 沙耶香 港区立港南中学校主任教諭
今野 日出晴 岩手大学教授
佐川 英治 東京大学教授
佐久間 敦史 大阪教育大学准教授
迫 真也 広島市立紙園中学校教諭
佐々木 智章 早稲田大学高等学院教諭
佐藤 弘直 厚木市立依知中学校教諭
佐藤 全敏 東京女子大学教授
重 秀雄 広島市立中広中学校主幹教諭
篠田 穰 福岡教育大学附属福岡中学校主幹教諭
篠塚 昭司 東京学芸大学附属世田谷中学校主幹教諭
白澤 保典 東村山市立東村山第四中学校主任教諭
須釜 昇平 八千代市立村上東中学校教諭

- 菅谷 昌弘 札幌市立平岡緑中学校教頭
薄田 和弥 札幌市立元町中学校教諭
鈴木 拓磨 豊島区立千登世橋中学校主幹教諭
関戸 明子 群馬大学教授
関 真規子 文京区立第六中学校指導教諭
瀬戸 康輝 広島市立大塚中学校教諭
早福 孝史 新潟市立高志中等教育学校教諭
高田 晶 足立区立東綾瀬中学校指導教諭
高橋 晶 千葉大学教育学部附属中学校教諭
高橋 達弥 足立区立第十四中学校主幹教諭
高山 知機 世田谷区立太子堂中学校校長
田崎 義久 東京学芸大学附属小金井中学校教諭
田中 将吾 福山市立清美中学校教諭
田中 伸 岐阜大学教授
谷藤 良功 千葉市立福毛国際中等教育学校教諭
学習院大学教授
千葉 一晶 調布市立第四中学校副校長
坪田 益美 東北学院大学教授
寺本 誠 お茶の水女子大学附属中学校教諭
土肥 大次郎 長崎大学教授
豊 啓司 福岡教育大学教授・副学長
内藤 圭太 東京学芸大学附属竹早中学校教諭
中尾 学 台東区立上野中学校主幹教諭
中北 浩爾 中央大学教授
中平 一義 上越教育大学教授
中村 達矢 福岡市立金武中学校教諭
中山 晃介 福井市光陽中学校教諭
新坂 大輔 清瀬市立清瀬第二中学校主幹教諭
服部 一秀 山梨大学教授
濱田 幸伸 高知大学教育学部附属中学校教諭
濱本 大悟 江東区立深川第八中学校主任教諭
東野 茂樹 葛飾区立堀切中学校副校長
藤井 辰典 松原市立松原中学校教諭
藤瀬 泰司 熊本大学教授
藤田 詠司 高知大学教授
藤田 淳 東村山市立東村山第二中学校主幹教諭
藤原 一弘 愛媛大学准教授
星野 勇悟 大東市立四条小学校首席
細野 悠司 埼玉大学教育学部附属中学校教諭
前田 良介 福山市立培遠中学校教諭

- 真壁 佑輔 札幌市立上野幌中学校教諭
牧 紀男 京都大学防災研究所教授
松澤 克行 東京大学史料編纂所教授
松下 誠 福岡市立住吉小中学校校長
松多 信尚 岡山大学教授
松原 健明 横須賀市立武山中学校総括教諭
溝口 和宏 鹿児島大学教授
向井 敏幸 大阪教育大学教授
毛利 透 福井市足羽中学校教諭
森川 禎彦 福井大学教育学部附属義務教育学校教諭
森山 幸一 福岡市立友泉中学校教諭
諸富 徹 京都大学教授
山貝 洋輔 新潟大学附属新潟中学校教諭
山田 秀和 岡山大学教授
湯澤 規子 法政大学教授
吉田 圭一郎 東京都立大学教授
吉水 裕也 兵庫教育大学理事・副学長
渡辺 宏輝 札幌市立明園中学校教諭
渡邊 頼史 福山市立城南中学校教諭
鵜 翔大 札幌市立栄町中学校教諭

- ICTの活用に関する校閲
福垣 忠 東北学院大学教授
緒方 広明 京都大学教授
小柳和喜雄 関西大学教授
小崎 誠二 奈良教育大学客員准教授
泰山 裕 鳴門教育大学大学院准教授
寺澤 孝文 岡山大学教授

- 特別支援教育に関する校閲
田中 良広 帝京平成大学教授
道面 美紀 墨田区立本所中学校指導教諭

ほか1名
東京書籍株式会社

- 色彩デザインに関する編集協力
色覚問題研究グループぱずてる

東京書籍

本社 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1
支社・出張所 Tel:03-5390-7373(社会編集部) Fax:03-5390-6015
札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467
金沢 076-222-7581 名古屋 052-950-2260 大阪 06-6397-1350
広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770
那覇 098-834-8084
ホームページ https://www.tokyo-shoseki.co.jp
教育情報サイト 東書Eネット https://ten.tokyo-shoseki.co.jp

東京書籍

パンフ+αの情報を特設サイトで!

東京書籍 中学校 公民



この資料は、令和7年度用中学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。



内容解説資料

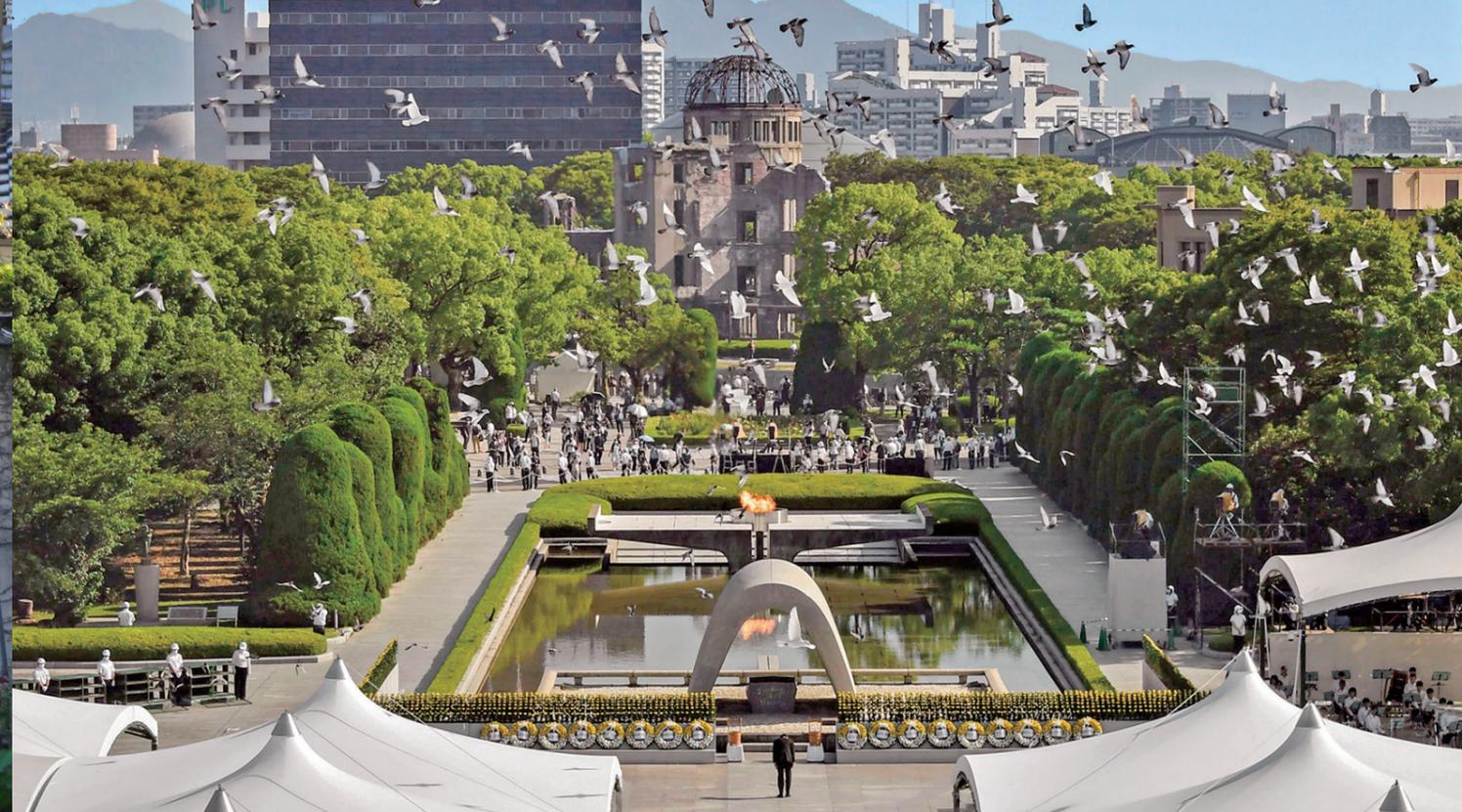


新編 新しい社会 公民



教科書活用 Q & A 更新中! QR code

*「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。
The United Nations Sustainable Development Goals web site: https://www.un.org/sustainabledevelopment/
The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States.



今と向き合い、持続可能な社会の実現に向けて
「これからの社会を生き抜く力」を育む



「新編 新しい社会 公民」3つの特色

特色

1

課題解決的な学習に
わくわくをプラス!



わくわくを誘う 学びの入り口 8
1時間の学習の流れを「見える化」 12
学びを実感! 学習のまとめ 14

特色

2

紙とデジタルで
学びがアップデート!



さまざまなシーンに最適な
QRコンテンツ 18
多彩なQRコンテンツで
学びをサポート 20

特色

3

生徒一人一人と
社会がつながる教科書



一人一人の資質・能力を育てる工夫 22
今と向き合い これからのを考える教科書 24
誰一人取り残されない学びのために 26

「新編 新しい社会 公民」の
編集にあたって
— 編集部からのメッセージ —



この教科書は、課題を自分たちで見つけ、考え、伝えるというプロセスを大切にしながら、現代社会を学んでほしいとの思いで、多くの人たちの力を集めて作られました。日常生活における困りごとから、地球規模の課題まで、今を知り、どこに課題があるのか、それはなぜ起きているのか、どうしたら解決に向かうのか、これからの社会の在り方を一緒に考えられるように紙面を工夫しました。中学生のみなさんに、公民の学びから現代社会の課題を見つけ、解決に向かうプロセスを通じて豊かな未来を創造してもらえることを願っています。

目次

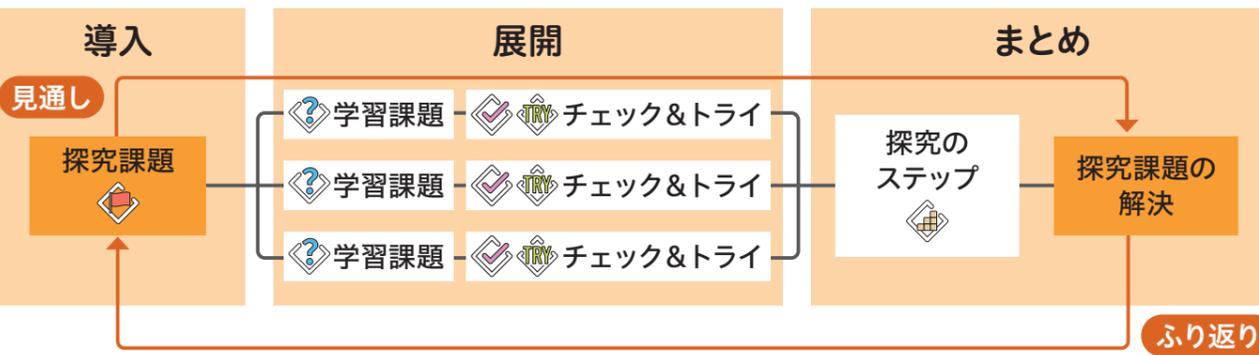
教科書の構成と学びの流れ	6	教師用指導書・学習者用デジタル教科書のご案内	28
特色① 課題解決的な学習にわくわくをプラス!	8	観点別特色一覧	30
特色② 紙とデジタルで学びがアップデート!	18	単元構成と配当授業時数	35
特色③ 生徒一人一人と社会がつながる教科書	22	代表者のことば	

「問い」を中心に課題解決的な学習を実現！

教科書の構成と学びの流れ

単元のまとまりを意識して深い学びにつなげることができるよう、単元を貫く**探究課題**を設定しました。1時間ごとの**学習課題**と探究課題をつなぐ踊り場の問い(探究のステップ)を設けることで、段階を踏んでスムーズに探究課題を解決できる構成になっています。

問いの構造イメージ



課題をつかむ

導入

動機付け

方向付け

導入の活動では、章の学習を通して追究する「探究課題」を設定します。生徒が自ら課題を設定することで、学習の動機付けや学習の見通しの方向付けを行います。



探究課題
章を貫く問い

▶ 本書 p.8~11

課題を追 究する

展開

情報収集

考察

展開では、社会的な事象等の解し、相互の関連を見たり、社 会に見られる課題を把握して 意味や意義、特色について理 解を積み重ねます。



学習課題
1時間の問い

チェック&トライ
1時間の振り返り

▶ 本書 p.12~13

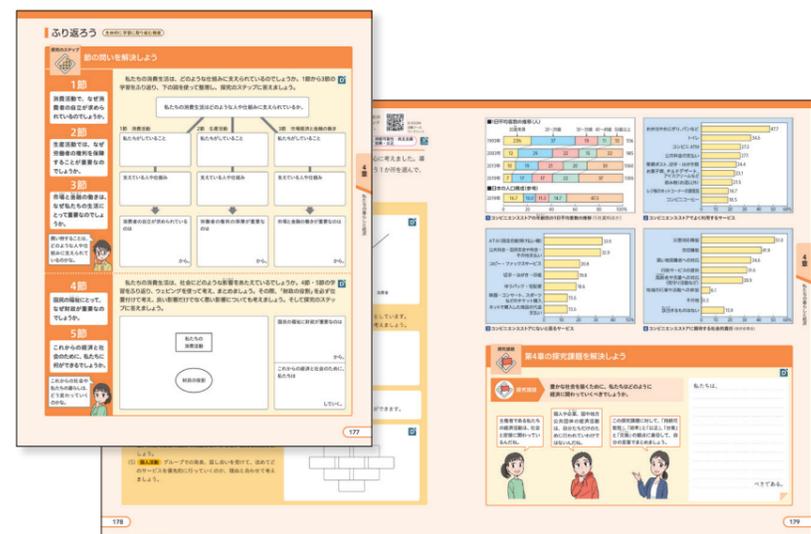
課題を解決する

まとめ

振り返り

まとめ

これまで学んだことを振り返り、考察したことや構想したことを自分の言葉でまとめ、「探究課題」の解決に取り組みます。



探究のステップ
節の問いの解決

探究課題
章を貫く問いの解決

▶ 本書 p.14~17

課題解決的な学習にわくわくをプラス!

わくわくを誘う 学びの入り口

第1章「現代社会と私たち」では、身近なまちのイラストからスムーズに公民の学習を始められるようにしました。学校やスーパーマーケット、コンビニエンスストア、商業施設など日常生活で利用する場所と教科書のページとのリンクから、生徒の“わくわく”を誘うとともに、**学びの見通し**を持つことができます。

第1章 現代社会と私たち

教科書 p.6~7の 実寸大



導入の活動

T市のまちの様子から 現代社会をながめてみよう

Dマークのあるものは右のコードからデジタルコンテンツにアクセスできます。



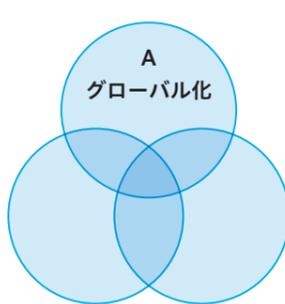
導入クリップ D-ZOOM 活動ツール



みんなでチャレンジ

(1) 1~6は、次のAからCのどれと関係があるか、「ベン図」を使って分類しましょう。

- A グローバル化(世界のさまざまな国や地域との結び付きが深まること)(p.10~11)
- B 少子高齢化(生まれる子どもの数が減り、人口に占める高齢者の割合が高まること)(p.16~17)
- C 情報化(情報通信技術の発達で社会が変化すること)(p.12~13)



ベン図とは?

対象を比較して分類することで、複数の事象の相違点と共通点を挙げることができるツール

(2) 社会では、持続可能な社会(p.8~9)の実現に向けてどのような工夫がされているか、イラストから挙げましょう。また、イラストの中に持続可能な社会の実現にあたっての課題がないか探しましょう。

(3) あなたの住むまちにも見られる現代社会の特色を、イラストから挙げてみましょう。また、これらの特色の中で、自分がより深く調べてみたいと思うものを挙げ、理由を述べましょう。

*イラスト内のページは、教科書の関連ページです。



探究のステップ



導入の活動を通して感じた疑問や気づいた点を整理しましょう。



1 節

私たちの生きる現代社会には、どのような課題があるのでしょうか。

私たちのまちにはどのような課題があるのかな。



2 節

私たちの生活において、なぜ多様な文化を大切にしなければならないのでしょうか。

文化の変化は、私たちの生活にどのような影響をあたえているのかな。



3 節

現代社会の課題を解決するために、どのような見方・考え方が大切にされているのでしょうか。

みんなが気持ちよく生活するためには、どのような方法で課題を解決すればいいのかな。



第1章の探究課題は?

現代の私たちの社会や生活には、どのような特色が見られるのでしょうか。また、現在、私たちの社会ではどのようなことが課題になっているのでしょうか。

第1章では、現代社会の特色や、私たちの生活を形作る文化の意義や影響を理解しながら、現代社会をとらえるための見方・考え方についても学習していきます。

こうした学習を通して、現代社会の課題を解決するために、私たちには何ができるのか、これからの社会をどのように創っていくかを考えるきっかけになるでしょう。そして、第1章での学習を、第2章以降の学習につなげていくことで、自分の考えをより深めることができるでしょう。



探究課題



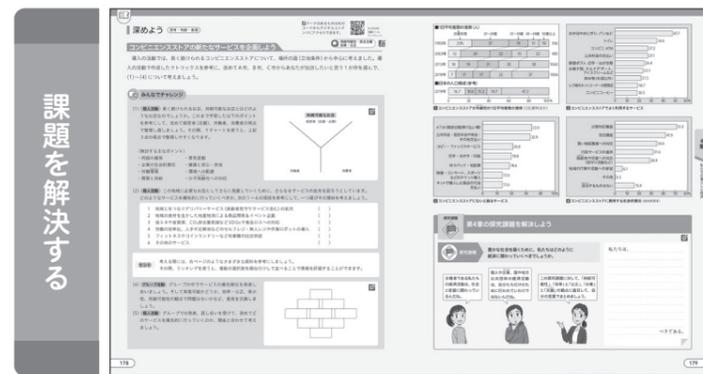
持続可能な社会の実現に向けて、私たちには何が求められるのでしょうか。

この章のまとめ(p.34~35)では、「T市の公園の使用ルールを考えよう」という活動に取り組みましょう。



主体的な学びにつながる 導入ページ

単元の導入では、活動を通して、生徒が **主体的に学びに向かえる** ようにしました。
単元を貫く探究課題の設定 へスムーズに導き、単元の学習の見通しを持つことができます。



導入ページ①

▼ p.129

第4章 私たちの暮らしと経済

左の「ことば」と下の①～④から、小学校と地理・歴史の学習をふり返りましょう。

小学校の社会で習ったことば

- 費用 サービス 資源 リサイクル
- 3R (リデュース・リユース・リサイクル)
- 価格 生産性 税金 貿易 公害 地域貢献

① 小学校

小学校の社会で習ったことば

- 費用 サービス 資源 リサイクル
- 3R (リデュース・リユース・リサイクル)
- 価格 生産性 税金 貿易 公害 地域貢献

小学校社会科で学習した用語は「小学校の社会で習ったことば」として掲載しました。また、小学校社会科の教科書に掲載されている資料に「小学校マーク」を付しました。

② コンビニエンスストア

コンビニエンスストアでは、売上げをのびすためどのような工夫をしているのかな。

③ 地理

私たちの暮らしや日本の経済は、海外とどのように結びついているのだろう。

④ 歴史

金融恐慌の取り付け騒ぎ(1927年)

金融恐慌では取り付け騒ぎが起こったように、銀行の役割はどのようなものかな。

129

小学校のふり返り

小学校の社会で習ったことば

- 費用 サービス 資源 リサイクル
- 3R (リデュース・リユース・リサイクル)
- 価格 生産性 税金 貿易 公害 地域貢献

小学校社会科で学習した用語は「小学校の社会で習ったことば」として掲載しました。また、小学校社会科の教科書に掲載されている資料に「小学校マーク」を付しました。

地理・歴史のふり返り

地理・歴史の教科書に掲載した資料にマークを付しました。

リニューアル

個人活動とグループ活動の相互作用で学びを深める「みんなでチャレンジ」

小集団の協動的な活動コーナーとして「みんなでチャレンジ」を設けました。深い学びにつながるため、**個人活動**と**グループ活動**を明示しました。

導入ページ②

▼ p.130~131

単元を貫く探究課題の設定場面对話形式で分かりやすく提示

単元全体を貫く探究課題を、1時間の導入の活動を通して設定します。主体的・対話的な学びから生徒自身が課題をつかめるよう、課題設定の場面には対話の例を示しました。

導入の活動 コンビニエンスストア

あなたは、大手コンビニエンスストアに勤める社員で、次期出店計画を立てることになりました。A市、B市、C市のうち1か所にコンビニエンスストアを出店しようと考えています。どこに出店したらよいでしょうか。その際、経営者、客(消費者)、店員(労働者)などさまざまな立場になって考え、できるだけ長く愛される店を目指しましょう。

A市資料

- 補助金: 300万円 出店費用: 800万円
- 客数: 400人 客単価: 750円
- 売上高: 30万円 時給: 820円以上
- 営業可能時間: 7~22時
- 自然が豊かで、多くの文化遺産が残っています。人口減少傾向にあり、働く場所が少ない地域です。
- 敷地が十分に広く、大きな駐車場があります。将来的に店舗面積の拡大が可能です。

B市資料

- 補助金: 200万円 出店費用: 1,000万円
- 客数: 700人 客単価: 600円
- 売上高: 42万円 時給: 920円以上
- 営業可能時間: 24時間
- 大型スーパーなどの競合する店はありますが、大企業の工場では多くの人が働いています。最近では住宅地も開発されています。
- 経費はありますが、店舗面積の拡大は困難です。

C市資料

- 補助金: 0円 出店費用: 1,200万円
- 客数: 1,000人 客単価: 660円
- 売上高: 66万円 時給: 1,040円以上
- 営業可能時間: 24時間
- 再開発により、人口増加傾向です。交通の便がよく、車や人の消費が多い地域です。新しい店が次々に開店しています。
- コンパクトな店舗面積で効率的に経営できます。

みんなでチャレンジ

あなたは、コンビニエンスストアを出店する資金として500万円を持っています。現時点で出店費用が足りない場合は、補助金の申請や銀行に借入などの方法をとって対応するものとします。

	経営者の視点	客(消費者)の視点	店員(労働者)の視点	最終的な出店場所			
A市への出店	平均客数	平均客単価	平均売上高	出店費用の確保	時給	労働環境	
B市への出店							
C市への出店							

① **個人活動** A市、B市、C市のどこに出店するか、理由も含めて考えよう。

その際、右の表(マトリックス)を使って、さまざまな立場の人の視点で整理しよう。(空欄に、○×△のいずれかで記入)。

② **個人活動** (1)で選んだ市に出店するコンビニエンスストアでは、どのような商品を主力に売れば売上げをのびせられるでしょうか。理由も含めて考えよう。商品例: 弁当、惣菜、飲み物や酒類、日用品、地域の土産品など

③ **グループ活動** (1)(2)について「発案」「公正」などの観点で問題がないかも含めて、グループで話し合おう。

④ **グループ活動** グループの考えをクラスで発表し合おう。

⑤ **個人活動** (3)(4)を参考に、どの立地と商品とをえればよいか、もう一度自分の考えを見直そう。

探究課題 豊かな社会を築くために、私たちはどのように経済に関わっていくべきでしょうか。

この章のまとめ(p.178~179)では、「コンビニエンスストアの新たなサービス企画しよう」という活動に取り組みましょう。これから学習していく経済の考え方を生かしてコンビニエンスストアがさらに長く続けられるお店となるような新たなサービスについて考えよう。

130

131

リニューアル

単元の到達目標を示し、見通しを持たせる

導入の活動とリンクしたまとめの活動で、何ができるようになっていけばよいかを明示し、単元の見通しを持たせることができます。

▶ 導入ページのQRコンテンツについては、本書p.18~19をご覧ください。

1時間の学習の流れを「見える化」

本文や資料、「チェック&トライ」、インデックスやQRコードなど、**紙面の要素を定位置に配置**。学習の流れを「見える化」したことで全ての生徒にとって学習に取り組みやすい紙面にしました。



1時間の学習の流れ

1 導入資料

1時間の課題をつかむきっかけとなる資料を大きく掲載しています。

2 学習課題

このページで学習する内容について、見通しを持つことができます。

3 本文

学習内容を分かりやすく文章にしています。重要な用語などは太字で示しています。

4 チェック&トライ

1時間の学習の最後に取り組んで、学んだことをふり返ります。

新設 NEW

生徒の興味・関心を誘うサブタイトル

「売りたい」「買いたい」のバランス

本時の内容の上に、生徒の興味・関心を誘うサブタイトルを設けました。

新設 NEW

QRコードを定位置に掲載!

学習課題やタイトルの隣にQRコードを掲載。定位置に置くことで、迷わずにいつでもQRコンテンツを活用できます。

紙面上はこのマークが目印!



詳しくは、本書p.20~21をご覧ください。

p.152~153 ▶

3 節 市場経済の仕組みと金融

1 市場経済と価格の決まり方

2 市場経済とは

3 需要・供給と価格との関係

4 チェック

5 トライ

1 ケーキの価格の決まり方

2 価格に関する疑問

3 インターネットオークション

4 企業の合同説明会

5 スキル・アップ B 需要量・供給量・価格の関係について考えよう

6 検索に便利なインデックス

7 整理された活動コーナー

新設 NEW

検索に便利なインデックス

学びのまとまりごとにインデックスを付け、検索性を高めました。

整理された活動コーナー

- 1) 実際の量に対して求める人が多いダイヤモンドは、「希少性」が高いといえます(p.133)。この場合、ダイヤモンドの価格は高いか、低いか、考えましょう。
- 2) 地球上に大量にある空気には価格は付いていません。この場合、空気の「希少性」はどのような状態か、考えましょう。
- 3) (1)と(2)から、「希少性」と価格との関係について、考えたことをグループで話し合います。

小学校の社会科や「スキル・アップ」で身に付けた技能を活用しながら資料を読み取ったり考えたりするコーナーに、🔍を付けました。また、見方・考え方を働かせる視点の例は、🔍で示しました。

▶ 本書p.23もご覧ください。

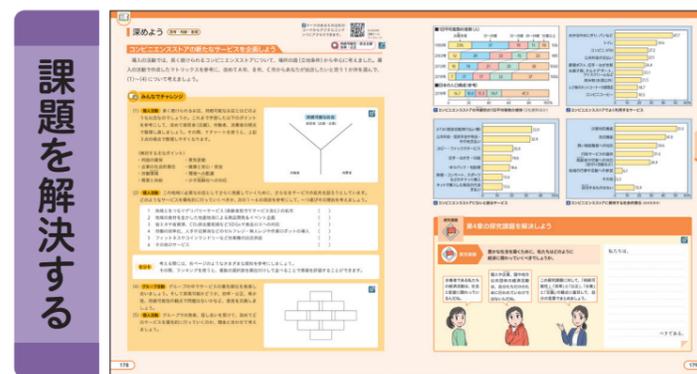
▶ 本文ページのQRコンテンツについては、本書p.18~19をご覧ください。

リニューアル

課題解決的な学習にわくわくをプラス!

多様なツールで 思考を整理

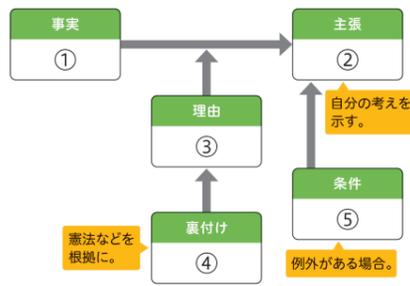
まとめページでは、自らの思考を整理するさまざまなツールを用意しました。紙の教科書とQRコンテンツを組み合わせることで、より多様な活動が展開できるようになりました。



「新編 新しい社会 公民」に掲載の思考ツール

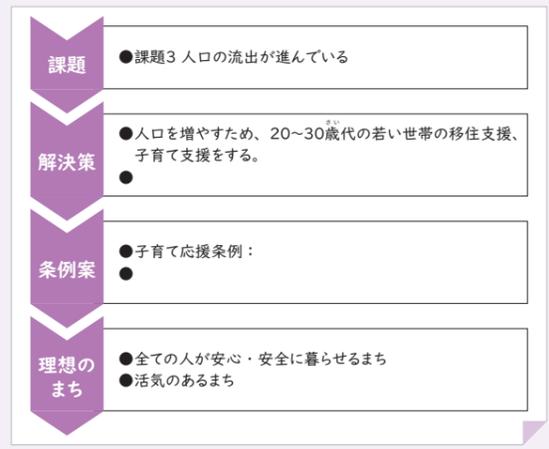
ツールミン図式とは?

ある事実から、自分自身の主張を考えると、主張の根拠を整理することができます。主張を支える「理由」や「裏付け」には巻末に載っている日本国憲法の条文などを活用しましょう。



▲ p.72「ツールミン図式」を使った例の解説

ステップチャート(ひなさんの考察の例)

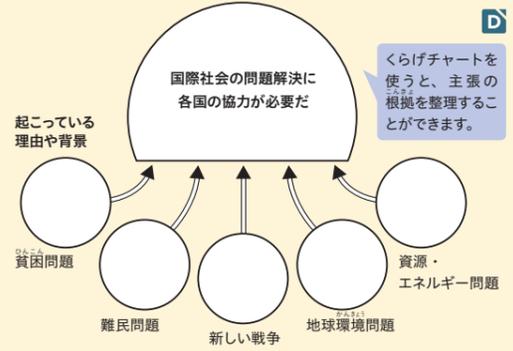


▲ p.125「ステップチャート」を使ったまとめの例

教科書に掲載の主な「思考ツール」

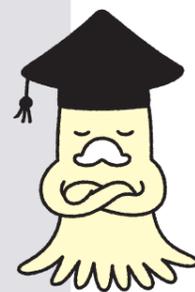
教科書ページ	内容
p.9	ウェビング
p.33	ランキング
p.35	座標軸
p.39	マトリクス(表)
p.71	ステップチャート
p.72	ツールミン図式
p.125	ステップチャート
p.130	マトリクス(表)
p.211	くらげチャート

2節では五つの問題について学習しました。これらの問題の解決には、なぜ各国の協力が必要なのでしょうか。それぞれの問題が起こっている理由や背景を、くらげチャートを使って整理し、探究のステップに答えましょう。



▲ p.211「くらげチャート」を使ったまとめの例

自分の考えが目に見える形になると整理しやすくなるのよ

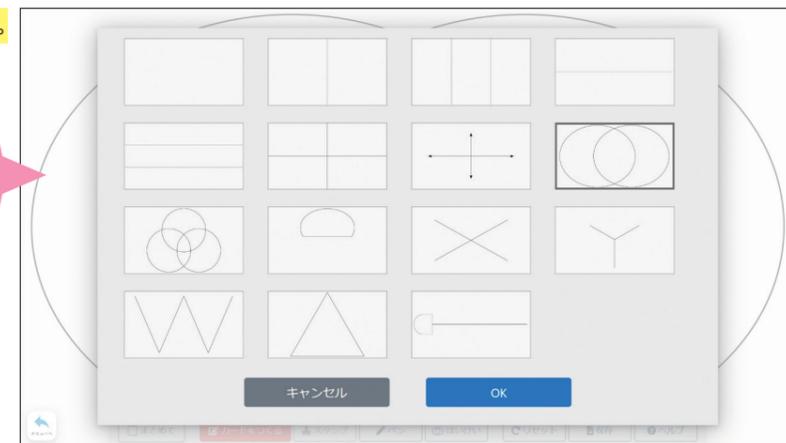


QRコンテンツでも思考ツールが充実!

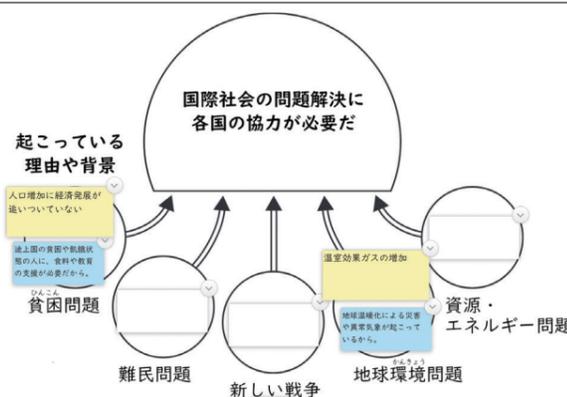
教科書のQRコードからアクセスできます。教科書に示した思考ツール以外も選択できるので、自分なりの方法で思考を整理することができます。

▶ 本書 p.19も合わせてご覧ください。

使いたい思考ツールを自由に選べる!



こちらから実際に試せます



付せんのように入力や移動が自在にできる!

こちらから実際に試せます

